

ダイオキシン

◎ダイオキシンってどんなもの？

正式にはダイオキシン類と呼び、炭素、水素、塩素などからなる化合物のポリ塩化ジベンゾパラジオキシン（PCDD）、ポリ塩化ジベンゾフラン（PCDF）、及びコプラナーポリ塩化ビフェニル（コプラナーPCB）の総称で、塩素の数や付く位置によって220種類ほど仲間があります。

そのうち、毒性があるといわれている物質は、29種類あります。

ダイオキシンは通常いわれているゴミの焼却のほか、金属精錬の焼却工程や、製紙の塩素漂白の工程などから発生し、また過去に農薬に不純物として含まれていたものが環境中に蓄積している可能性があるともいわれています。

◎TDIって何ですか？

平成12年1月より、国はダイオキシン類対策特別措置法で、ダイオキシンの当面の耐容一日摂取量（TDI）を、体重1kgあたり、一日4ピコグラムとするとしました。これは、どういうことなのでしょう。

TDIとは生涯にわたって、毎日、その量の物質を摂取し続けたとしても、健康に害を及ぼさないと考えられる指標のことです。

つまり、ダイオキシンのTDIが4ピコグラムだということは、体重50kgの人ならば、 $4 \times 50 = 200$ ピコグラムのダイオキシンを毎日摂取し続けたとしても、健康には影響を及ぼさないということです。

◎ピコグラムってどのくらいの量なのでしょう？

1グラムの1兆分の1を1ピコグラムといいます。数字で書くと、0.0000000000001グラムとなります。

ランドマークタワーに相当する体積の入れ物を水（100万トン）で満たし、1gの砂糖を溶かした場合、その水1mlに含まれる砂糖が1pg（ピコグラム）となります。

事件ファイル

ベルギーの鶏卵・鶏肉ダイオキシン汚染事件

平成11年5月、ベルギー政府は同国産の鶏肉・鶏卵のダイオキシン汚染を発表し、これを受けて日本政府はベルギー産、オランダ産、フランス産の鶏肉等の販売の自粛を指導しました。このため、一時フランス産のチーズが、店頭から姿を消したのは記憶に新しいことです。

この事件の原因は、リサイクル処理されるために回収されていた食用油の中に、工業用の廃油が混ざり込み、この中にダイオキシンを含んだPCBが入っていたため、リサイクル食用油を使用して製造された家畜用飼料に、ダイオキシンが混入してしまったものでした。

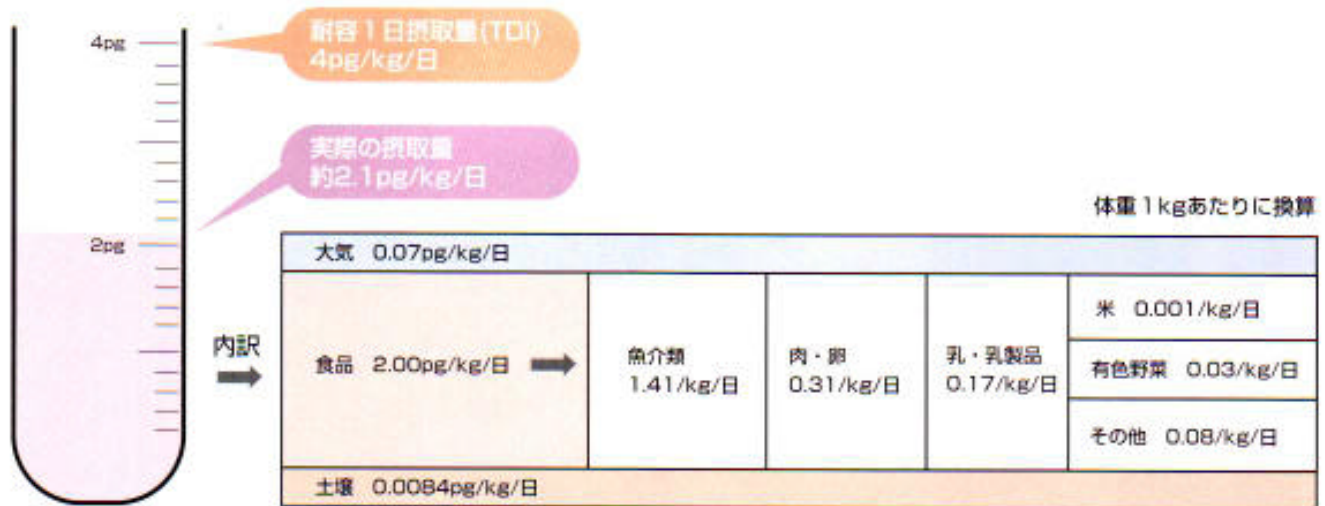


◎日本人はどのくらいダイオキシンを摂取しているのでしょうか？

厚生省が平成10年度に実施した食品中のダイオキシンの一日摂取量調査によれば、日本人は平均、体重1kgあたり食品中から、2.00ピコグラムを摂取しています。

ところで、人間が体内に摂取するものは食品ばかりではありません。大気、土壌からも取り込む量を考慮すると、国の調査によれば、日本人は約2.1ピコグラムのダイオキシンを体に取り入れているものと考えられています。

我が国におけるダイオキシンの一日摂取量



◎母乳中にダイオキシンが多く含まれていると聞きましたが。

平成11年7月、母乳中のダイオキシン濃度が厚生省から発表され、これによれば全国平均値で、母乳の脂肪1gあたり、22.2ピコグラムとなっています。

ただ、ここ20年間で母乳中のダイオキシン濃度は半減しており、人のダイオキシン摂取量は低減してきたと考えられます。

なお、母乳保育について国は、「母乳から赤ちゃんが取り込むダイオキシンの影響については、なお研究が必要だが、母乳保育が赤ちゃんに与える有益な影響を考えると、母乳保育は推進されるべきものである」との見解を示しています